

Bell Forum

地域と職員とともに栄えるチーム

ベルランド総合病院広報誌「ベルフォーラム」

2020年度

新部長・ 新入職医師のご紹介

連載 登録医のご紹介

2020
Summer

68

TOPICS

片岡院長就任のご挨拶
市民公開講座を開催
地域医療懇話会を開催
産婦人科レビューコースを開催
消防署から感謝状を拝受

夕ヒチ：前北

第10回市民公開講座

片岡院長就任のご挨拶

初めまして、本年1月より院長に就任しました片岡です。専門は心臓・血管を扱う循環器内科でカテーテル治療を中心に診療して参りました。

現在、当院では、緊急性の高い心臓・脳血管疾患において、24時間専門医が対応する体制を構築し、また救急隊と連携し患者さんを院外の現場から診療を開始するドクターカーも運用しております。また堺市で唯一の周産期母子医療センターであり、合併症を持っておられる方の出産や低体重出生児に対する集約的医療を産婦人科・小児科の緊密な連携の下24時間体制で行っております。更にごがん診療に関してはダヴィンチ等を用いた低侵襲で安全

かつ高度な手術を行うと共に、がん患者さんの就労支援や日常生活への復帰の介助、また早期からの緩和ケアの介入などトータルヘルスケアを展開しております。

今後も救急・周産期・がんという3つの柱を中心に地域に根ざす医療を提供して参ります。

院長 片岡 亨



イベント当日の様子



患者さんからがん相談を受けるカウンセラー



患者さんの骨密度測定する看護師

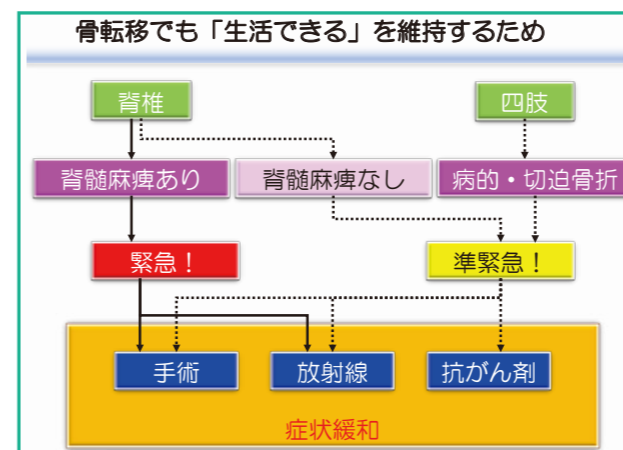
当日全体の流れについて

2月1日土曜日、堺市北野田の東文化会館において第10回市民公開講座が開催されました。新型コロナウイルスの蔓延が危惧されている中、例年よりは少ないものの約170人の方々に参加いただきました。

開催に先立って、2009年から2019年まで11年間院長を務めた亀山雅男から、これまでのお礼と生長会・悠人会理事長就任の挨拶があり、引き続き2020年1月院長に就任した片岡亨から今後の抱負が述べられました。

講演は、まず外科医で副院長の川崎誠康が、昨年当院に導入されたロボット支援手術ダヴィンチによる直腸癌手術について、その繊細な動きがよくわかるビデオをまじえて講演しました。実際、どのようにロボットのアームが動き、手術しているのか参加者の方々も、日ごろ決して見る事が出来ない映像にくぎ付けになっていました。後の質疑応答でも、実際に見られてよかったという感想が多数ありました。

がんロコモのススメ一部抜粋



がんロコモについて熱弁する大島医師

ロボット支援手術ダヴィンチについて一部抜粋



ダヴィンチ手術について説明する川崎医師

次にリハビリテーション科部長の大島和也から「骨転移でも動けるために・・・「がんロコモ」のすすめ」という演題で、2人に1人は癌になると言われている時代に、たとえ癌になって骨転移が生じてあきらめる必要はないと勇気づけられる講演でした。癌が骨に転移しても寝たきりにならないで、そこから再度歩けるように生活の質を向上させて実りある残りの人生を送ろうではないか！という熱のこもった話をステイプ・ジョブスばりのパフォーマンスで聴衆を魅了し、会場を支配していました。

毎回の事です、講演後は骨密度測定に長い列ができていました。この市民公開講座は、2011年から毎年1回開催され今年で10回を迎えました。これまでも市民の皆さんの興味ある話題を選び多くの方々に参加をしていただきました。今後も、「ベルランドの公開講座はおもしろい。行って勉強になって良かった。」と評価を受けられるように努力していきたいと考えています。

座長 副院長 大町哲史

登録医のご紹介

根来内科 根来 昂先生・真一郎先生

内科



副院長 根来 真一郎 先生
 星座:かに座 血液型:A型
 趣味:映画鑑賞、読書

院長 根来 昂 先生
 星座:おうし座 血液型:A型
 趣味:ゴルフ、読書、オーディオ

Q. 医師を目指したきっかけは?

祖母と父親が開業医であったので、小さいころからその姿を見て自然と人の役に立ちたいと、医師を志すようになりました。

Q. 診察の際に心がけていることは?

自分の家族だったらどうするか?と考えながら、診療するようにしております。

Q. ベルランド総合病院への希望・要望

ベルランド総合病院へ紹介して命が助かった患者さんもおられます。今後とも密な連携をさせていただきたいと思っております。

Q. 地域医療について

開業医・総合病院間の密な連携が肝要だと思っております。

Q. 最後に一言お願いいたします

かかりつけ医として内科一般の他、幅広い疾患に対応できるよう精進してまいります。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	/
17:30~19:30	●	●	●	/	●	/	/

※木・土曜は午後、日・祝は終日お休みとなっております。
 住所:大阪府堺市南区新樽尾台3丁5-2 TEL:072-298-2646

新規登録医紹介

登録医件数 420件 2020.3.31 現在

北区	しょうのクリニック しょうの よしはる 庄野 嘉治 先生	北区	てらもと脳神経外科クリニック てらもと よしふみ 寺本 佳史 先生
東区	MEDICAL CLINIC 森本医院 もりもと じゅんや 森本 純也 先生	東区	かわた内科クリニック かわた しゅうへい 川田 修平 先生
南区	うえのけんで皮膚科 うえの けんご 上埜 剣吾 先生		

Topics

2020年2月17日 『第10回リハビリテーションセミナー』を開催しました

- 一般演題
「誰でもできるシリーズ②
～循環器疾患～再発予防についての基礎知識とフィジカルアセスメント」
- 講師
大阪市立大学附属病院 リハビリテーション科
理学療法士 加藤 良一先生



2020年2月～ 『新生児コール』はじめました

- ベルランド総合病院周産期母子センター 新生児病棟にて、新生児コールを始めました。小児科医と看護スタッフが同乗するドクターカーの態勢を整え、病棟に直接つながる電話で対応を行っております。緊急対応が必要な新生児症例がございましたら、ぜひご連絡をお願い申し上げます。
- 対応可能時間 月～土曜 9:00～17:00



2020年2月17日 第16回 保険薬局研修会

第16回 保険薬局研修会を2月1日 AIFホールにて開催いたしました。

『オピオイド』をメインテーマとし、緩和ケア科 山崎圭一部長から「1枚の処方箋から始まる緩和ケア～オピオイドの処方から患者さんを知り、聴き、見るためには～」という内容で、わかりやすくご講演頂きました。

薬剤師からは緩和ケア領域で話題となっているがん患者のコーピングや嗜癖について、実際の症例を交えて講演しました。

この数年、当院でもオピオイド嗜癖のある患者を見かけることがあります。がん疼痛のある患者が嗜癖に至ると、客観的疼痛評価が難しくレスキューの服薬判断に困難を極めることがあります。嗜癖からの離脱には患者の確固たる意思、それを支える家族の理解と

協力が不可欠です。離脱後は在宅医療を担う医療者と情報共有し適切なサポートが必要となります。

適切な緩和ケアを提供するため、新しい情報を共有し薬剤師も医療者の一人として地域医療の一端を担うことが出来ればと思います。

薬剤部 科長補佐
多胡 友絵



新部長就任

呼吸器腫瘍外科 部長 岡部 和倫



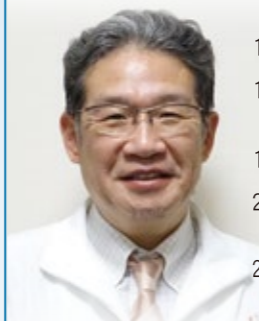
【略歴】

1985.3 大分医科大学 卒業
 1985.4 岡山大学第2外科入局
 1994.5 ハーバード大学留学(6年3ヶ月)
 2002.4 ブリガム アンド ウィミズ病院
 胸部外科 クリニカルフェロー(2年間)
 2005.4 岡山大学呼吸器外科 講師
 2008.4 国立病院機構山陽病院 外科系診療部長
 2012.4 国立病院機構山口宇部医療センター
 (病院名変更) 統括診療部長

【資格】

日本外科学会: 専門医・指導医 日本胸部外科学会: 指導医
 日本呼吸器学会: 専門医・指導医
 呼吸器外科専門医合同委員会: 専門医
 日本呼吸器内視鏡学会: 気管支鏡専門医・指導医
 Educational Commission for Foreign Medical Graduates

血管外科 部長 馬場 俊雄



【略歴】

1992.3 札幌医科大学医学部医学科 卒業
 1996.3 札幌医科大学大学院医学研究科
 心臓血管外科学専攻 卒業
 1998.8 ドイツ心臓センターベルリン臨床留学
 2010.4 市立函館病院 心臓血管外科
 主任医長
 2019.10 大阪市立大学心臓血管外科病院
 講師

【資格】

日本心臓血管外科学会: 専門医、修練指導者、国際会員
 日本外科学会: 認定医、専門医
 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト指導医
 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト指導医
 ドイツ心臓センターベルリン 心臓血管外科フェロー(臨床留学)

呼吸器外科 部長 永野 晃史



【略歴】

1997.3 大阪市立大学医学部 卒業
 1997.5 大阪市立大学医学部附属病院
 研修医
 1999.4 石切生喜病院外科 医員
 2002.4 大阪市立北市民病院 研究医
 2007.4 大阪市立大学医学部附属病院
 後期 研究医
 2009.7 大阪市立大学医学部附属病院
 病院講師

【資格】

日本外科学会: 専門医 日本呼吸器学会: 専門医
 厚生労働省緩和ケア研修: 修了 日本呼吸器外科学会: 専門医、評議員
 日本呼吸器内視鏡学会: 気管支鏡指導医・気管支鏡専門医、評議員
 肺がんCT検診認定機構: 肺がんCT検診認定医師
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 小切開・鏡視外科学会: 評議員 近畿外科学会: 評議員

関節外科 部長 許 太如



【略歴】

2001.3 高知医科大学 卒業
 2001.6 大阪労災病院整形外科
 2003.6 独立行政法人国立病院機構
 呉医療センター整形外科
 2005.1 貝塚市立貝塚病院整形外科
 2006.1 大阪大学附属病院整形外科
 2006.7 箕面市立病院整形外科
 2009.7 独立行政法人国立病院機構
 大阪医療センター整形外科

【資格】

日本整形外科学会: 専門医

呼吸器内科 部長 江口 陽介



【略歴】

2001.3 島根大学医学部医学科 卒業
 2007.3 大阪市立大学大学院 卒業
 2001.4 大阪市立大学医学部附属病院
 2007.4 PL病院
 2010.4 石切生喜病院

【資格】

日本呼吸器学会: 専門医、指導医
 日本内科学会: 総合内科専門医、認定医
 日本呼吸器内視鏡学会: 気管支鏡専門医
 日本アレルギー学会: 専門医
 日本がん治療認定医機構: 認定医
 厚生労働省緩和ケア研修 修了

初期臨床研修医



あおき よしえ 青木 淑恵 あきおか まさし 秋岡 正史 いとやま ひろしげ 糸山 廣重 あかもと こうたろう 岡本 好太郎



しらかわ よしゆき 白川 喜之 ついで ゆういちろう 辻井 優一朗 てらがき かずとし 寺柿 和俊 まるやま みなみ 丸山 南

循環器内科



なかたに よしひろ 中谷 佳裕 2008年卒 日本循環器学会: 専門医 日本内科学会: 認定医
 たに けんじろう 谷 憲治郎 2012年卒 日本内科学会: 認定医
 そね さつき 曾根 さつき 2017年卒
 あかもと あきひろ 岡本 彬裕 2017年卒
 まつもと こうたろう 松本 浩太郎 2018年卒
 はら かんたろう 原 幹太郎 2010年卒 日本外科学会: 専門医 呼吸器外科専門医合同委員会: 専門医

産婦人科



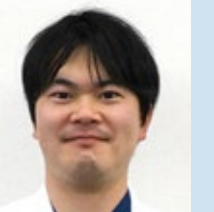
まつき たかこ 松木 貴子 2010年卒 日本産婦人科学会: 専門医 日本女性医学学会: 女性ヘルスケア認定医・専門医 日本がん治療認定医機構: 認定医 日本周産期・新生児医学会: 専門医 厚生労働省緩和ケア研修 修了
 なかあ ゆみ 仲尾 有美 2018年卒
 ふじた あおい 藤田 葵 2018年卒

消化器内科



なかにし けいけい 中西 啓祐 2008年卒 日本内科学会: 認定医・総合内科専門医 日本消化器病学会: 専門医 日本消化器内視鏡学会: 専門医 日本肝臓学会: 専門医
 きのみた ひろき 木下 博貴 2016年卒

呼吸器外科



はら かんたろう 原 幹太郎 2010年卒 日本外科学会: 専門医 呼吸器外科専門医合同委員会: 専門医

乳腺外科



おおはら あこ 大原 亜子 2009年卒 日本乳癌検診精度管理中央機構: マンモグラフィ読影認定医 厚生労働省緩和ケア研修 修了 日本乳癌学会: 専門医 日本外科学会: 認定医

放射線診断科



おがわ ひろゆき 小川 博之 2013年卒 日本医学放射線学会: 放射線科専門医
 よします ありさ 吉増 有紗 2017年卒

小児科



たなか としあき 田中 俊光 2012年卒 日本小児科学会: 専門医
 あめざら ちづる 雨皿 千鶴 2018年卒
 つやま みほ 津山 美穂 2018年卒

形成外科



おうえ たかき 尾上 貴紀 2018年卒

呼吸器内科



いづみ もとひろ 泉 源浩 2013年卒 日本内科学会: 認定医
 そね りさ 曾根 莉彩 2017年卒

外科



はまの げんや 濱野 玄弥 2009年卒 日本外科学会: 専門医 日本消化器外科学会: 専門医 消化器がん外科治療認定医

整形外科



すぎもと あつし 杉本 篤史 2018年卒

2020.1月 新部長 1名
 2020.4月 新部長 4名(うち昇進2名)
 2020.4月 新入職医師 30名(うち臨床研修医8名)



第23回 地域医療懇話会



■ 当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療について

当科は、咽喉頭領域、鼻副鼻腔領域、耳科領域、頭頸部腫瘍と多岐の疾患を診させて頂いております。

最近では頭頸部腫瘍の割合が増加傾向にあり、実際昨年の入院症例の20%を占めております。頭頸部癌は全悪性腫瘍の5%程度を占め、治療の主体は手術、放射線治療、薬物療法となり、治療ガイドラインに準じて治療法の選択をしています。

また、頭頸部領域といった特有の部位であることを加味した上で治療方法を

選択しています。

頭頸部には咀嚼、嚥下、発声、呼吸など、生活機能に重要な役割を果たす臓器が多く含まれており、これらが障害されると患者のQOLに非常に深刻な影響を及ぼします。

そのため、頭頸部癌に対する治療では癌の根治は勿論ですが同時に機能温存も重要な課題であり、さらに顔面の形態維持などの整容的な配慮も必要となります。

さらに最近では高齢化の問題のため、個別化治療を検討する場合も多くあり

ベストな対応をさせて頂いております。

今後とも耳鼻科全般はもとより、頭頸部癌診療にも力を入れていきますのでご紹介よろしくお願いたします。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科
部長 三上 慎司



■ がんロコモのニューフロンティア～がんでも「動ける」「生活できる」ために～

当科は、急性期病院として、回復期や地域にスムーズに橋渡しできるリハを目指しています。

ロコモの主因である骨粗鬆症、変形・変性疾患、骨転移のリハ、心臓リハに注力し、「動ける」「生活できる」を支えるリハに積極的に取り組んでおります。2060年には平均年齢が女性91歳、男性85歳、人口の4割が高齢者(65歳以上)になるとされ、2人に1人(あなたか私)ががんになる時代です。健康寿命の延伸が叫ばれる如く、できる限り人様のお世話になる(介護される)こ

となく、自分で「動ける」「生活できる」(自立する)ことが求められる社会に変化しています。

いのち(生命)を救う治療のみならず、いま「動ける」生活、人生を支える治療も大切に。

骨転移・骨粗鬆症外来を開設し、脊髄麻痺や骨転移に対する緩和外科、骨粗鬆症性圧迫骨折や脊椎転移に対する低侵襲手術、がんのトータルケアマネジメントも行っております。当たり前の日常生活のなかで歩けなくなったとき、仕方がないとあきらめず、

ぜひご相談ください。

そのヒントとして「がんでも歩こう! (日経BP)」をご覧ください。いただければ幸いです。



リハビリテーション科
部長 大島 和也



■ ～産科から他科の先生方に伝えたい～妊産婦さんへの処方と説明のポイント

当院は、総合周産期特定集中治療室(MFICU)6床を有する地域周産期母子医療センターです。

緊急を要する母体胎児の状態に即時対応すべく産科病棟内に専用手術室を持ち、24時間空白無く必ず2名以上の産婦人科医が院内に常駐する体制を整えています。母体搬送は妊娠26週以降の胎児救急に対応可能です。

その上で、堺市および近隣の妊産婦さんの安心安全な出産を実現するためには、近隣の開業医の先生方との連携が重要と考えています。お互いに顔が見え

る関係を築き、皆様のニーズにあわせて今後NCPRやJCMELSなどの講習会等も提供していきたいと考えています。

さて、今回の地域医療懇話会では、産婦人科以外の先生方にも楽しんでいただけるように、「妊産婦さんへの処方」についてお話しさせていただきました。妊産婦さんへの説明のポイントは、

- ①妊産婦さんに今から処方する場合と、内服中に後から妊娠が分かった場合とを分けること
- ②処方のメリットとデメリットを自然予後との比較で説明すること
- ③あまり一般的ではない医薬品や複数

処方の場合には、『妊娠と薬情報センター』を利用する方法もあること等をお話しさせていただきました。当日いらしてくださった皆様方、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

産婦人科 部長
大西 洋子



■ 総合診療外来の概略と展望

月曜から土曜日までの平日午前8時～11時45分までの受付で、おもに3診体制で診療を行っています。

自己来院で受診の患者さまや他病院・クリニックなどからご紹介の患者さまの初期診断をさせていただき、必要に応じて当院当該科や診療可能な他病院やクリニックなどへのご紹介をさせていただきます。当院の内科では、循環器、呼吸器、消化器、脳神経、糖尿病への対応は可能ですが、血液疾患、腎臓疾患や膠原病への対応はできない状況です。

後者の疾患が強く疑われる場合には、対応可能な病院などへの紹介をお願いいたします。現状では、全体の3割くらいの患者さんが、他院などからのご紹介で、同じく

3~4割の方が自己来院されている状況です。

今後は、紹介患者さんの割合を少しずつ増やしていくこと、さらには近隣のクリニックや病院などへの逆紹介患者を増やしていこうと考えています。

最後に、総合診療外来ではクリニックなどで診察後、診療情報提供書をおもちで早急な対応が必要と判断された

患者さんに関しては、通常の受付時間にこだわらず15時30分頃までに当院に来ていただければ対応させていただきますので、地域医療連携室へのご連絡をよろしくお願いいたします。

総合診療内科
部長 丸山 克之



毎年恒例の生長会産婦人科レビューコースは記念すべき第10回目を迎え、2020年2月8、9日の二日間、ホテルモントレ・グラスミア大阪において開催されました。私が10余年前、生長会に入職して間もない時、当時の田口義文理事長との雑談の中で、若い産婦人科医を対象にしてこのような会を持つことを一つの夢としてお話したことが、まさに「瓢箪から駒」となったと言えます。

胎どの学会や講演会では、最先端の医療や研究を中心に取り上げる内容が多く、専修医やレジデントレベルの先生方にエビデンスを以て“医療のスタンダード”を納得させてくれ、同時に、自分たちの日常の診療における疑問や質問に、各分野のエキスパートが目の前で答えてくれるような機会は少なかったように感じていました。

理事長の賛同とサポートを得た私は早速、産婦人科の山崎正

まさに“瓢箪から駒”
一つの夢が現実に。
村田 雄二



人先生と具体的な立案をし、手探りながら第1回を2011年2月に府中病院のセミナーホールを使わせていただいて開催しました。その日は生憎、早朝から記録的な大雪だったことを覚えております。

当初は講演者12人で、質疑応答を充分にするために受講者は50人に限りました。予想を上回る好評をいただき、回を重ねるにつれて、受講者は北海道から九州と全国的に広がるだけでなく、講演者の出演希望もいただき、今回の第10回目では受講者114人、講演者は16人、その内の8人は第1回目からの連続出演の先生方です。受講者の熱気は驚くほどで司会者としても質疑応答が止められず、両日とも終了予定時間を大きく超過する有様です。

本コースをこれだけ実のあるものとし、長く継続させることができたのは、田口義文、田中肇、亀山雅男、歴代の各理事長をはじめ、若い医師を育むことに情熱を持って講演いただいている各分野のエキスパートの先生方、更には生長会法人本部 医学教育センターの産婦人科レビューコース事務局としてスタートを切っていただいた、満壽川事務長、煩雑な、しかし、いつも細やかで完璧な事務的援助を下さっている高橋主任、紀之定主任の皆様方のご理解と献身的なご努力の賜物と、この場をお借りして深くお礼を申し上げます。

生長会 医学教育センター長
大阪大学医学部 名誉教授
村田 雄二



“経験”がヒトを救う

某ドラッグストアで買い物中、店内で「救急車呼んで。」「意識がないみたい。」という声が聞こえてきました。声のする方へ行ってみると、店の入り口付近で女性が倒れていました。意識がなく、かなりの努力様呼吸で、対応中に頸動脈触知不可能となり、胸骨圧迫を開始しました。

一緒に買い物に来ていた母も駆けつけ、気道確保を依頼し心肺蘇生を二人で無我夢中で行いながらも、心の中では「早く救急車来て!」と思っていました。救急隊に引継いだ後、その女性がどうなったのかと案じていたら、家族からドラッグストア経由で連絡が入り、当院のICUに入院されたことを知り、後日、本人に会うことができました。苦しそうにしていた表情が頭に焼きついていましたが、会った時には「助けてくれて、ありがとう。」と涙されていました。

母にも無事意識が戻っていた事を伝えると、大変喜んでいました。両側肺塞栓の診断でしたが、治療後

リハビリをされ、後遺症もなく無事に社会復帰されたと知り、自分の事のように嬉しく思っています。現場での応急処置に対して後日、中消防署の方から感謝状をいただきました。初めてこのような場面に遭遇し、自然と倒れていた方の側に行き対応をしていた自分の行動に驚きました。

実は急変時の対応などが苦手であった私ですが、救急室や集中治療室で培った経験が咄嗟の行動に繋がったのだと思います。普段の生活の中で何が起こるかわかりません。何かの時に冷静にその場の状況を判断し行動に移せるようこれからも精進していきたいと思っています。



ICU 主任
中西 由佳

培った経験が咄嗟の
行動に繋がった。

中西 由佳

